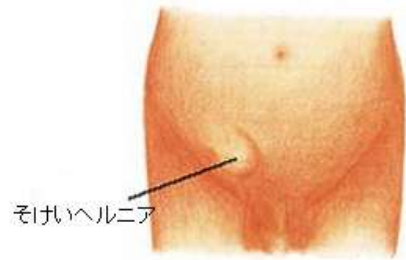


## 鼠径ヘルニアとは

鼠径部（下腹部から足の付け根あたり）の腹壁の弱い所から腹膜の一部のヘルニアのう嚢が突出した状態で、腸管や大網などの腹腔内容が脱出し皮膚の下が膨らみ、一般的には「脱腸」と呼ばれている病気です。



●そけいヘルニアの位置

## 鼠径ヘルニアになりやすい方

40歳以上、特に60歳前後の中老年男性に多くみられます。

女性の場合は男性に比べ少ないですが、20歳～40歳が多い傾向があります。

日常的に重いものを運んだり、立ち仕事や同じ姿勢を続けてきた人、肥満気味な人、便秘症の人に多い傾向もあります。

## 鼠径ヘルニアの症状

- 鼠径部に不快感や痛みを感じる。
- 立った時やお腹に力を入れた時、鼠径部に柔らかい腫れを感じる。
- 鼠径部の腫れを指で押さえると引っ込む。

## 嵌頓ヘルニア：腸管が脱出したまま戻らなくなる状態

鼠径部の腫れが引っ込まなくなり、痛みや吐き気などの症状が現れ、嵌頓した状態が続くと腸が壊死する危険性があります。緊急手術が必要な場合もありますので医療機関を受診して下さい。

嵌頓を予防するために、自分で押さえて引っ込ませるように心がけてください。



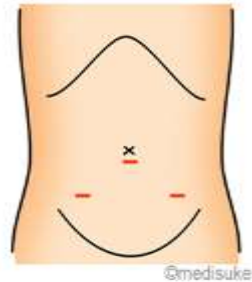
## 治療法

手術によって腹腔内容の脱出を防止し、嵌頓、壊死の危険を無くします。

### ① 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術【全身麻酔】

腹腔内より、実際に脱出している部位に内張りをするようにメッシュを固定し補強します。

お腹に3カ所のごく小さな穴（5mm～10mm）を開け、そこからカメラや専用の器械を入れて手術をします。通常、おへそに10mm、その両脇に5mmの穴を開けますが、非常に小さい傷ですので、手術の後が目立たない上、傷口の痛みもごくわずかです。

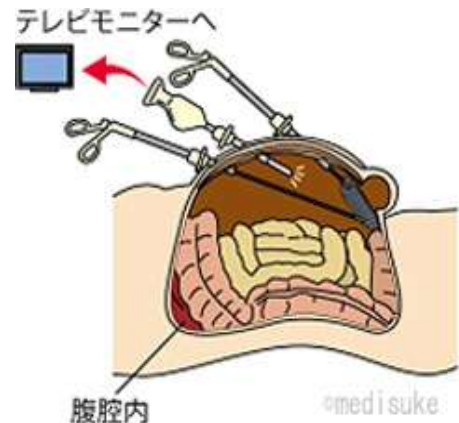


#### 《利点》

- ヘルニアの診断・脱出部位の同定が容易。
- 両側であった場合、手術が一度で行える。
- 傷が小さい。

#### 《欠点》

- 腸管の癒着を起こす可能性がある。
- 心・肺・血管系への負担上昇の可能性がある。



### ② 鼠径ヘルニア修復術（メッシュプラグ法またはクーゲルパッチ法など）

#### 【腰椎麻酔または全身麻酔】

腹壁の隙間にメッシュプラグ、あるいはポリソフトなどのメッシュで腹壁を補強します。

当院では、通常①の方法で手術を行う方針としていますが、診察時に相談の上決定します。

## 受診から入院まで

- ① 予約日に鼠径ヘルニア外来（外科外来）を受診し、医師と相談しながら手術法、手術日程、入院日程などを決めていきます。  
※内服中のお薬がある場合はお薬手帳かお薬説明書またはお薬を持参してください。
- ② 全身状態のチェックのため検査が行われます。  
血液検査・尿検査・レントゲン撮影・心電図・呼吸機能検査など  
※治療中の病気がある場合や検査結果によっては検査が追加されます。
- ③ 麻酔科医の診察を別の日の午前中に予約し、受診していただきます。
- ④ 健康状態や手術方法などによって異なりますが、手術前日の午前中に入院していただき、手術の翌々日以降の退院（3泊4日～）となります。  
お仕事の都合等で、ご要望のある方はお気軽にご相談ください。
- ⑤ 入院費用や高額療養費支給制度などについては入院案内窓口でお気軽にご相談ください。

## 外科外来より

近年、全国的に胃癌や大腸癌に対する腹腔鏡手術が急速に普及してきており、適応も徐々に拡大されてきています。当科でも鼠径ヘルニアだけではなく胃癌や大腸癌、胆石症などに対する腹腔鏡手術も積極的に行っています。

2008年4月からの3年間に、全身麻酔下に行った手術のうち、腹腔鏡手術を行った割合は約70%です。

鼠径ヘルニア以外で腹腔鏡手術を希望される方は、外科外来にご相談ください。

連絡先：金沢社会保険病院 外科外来  
電話：076-252-2200（代表）